

神奈川県自然環境保全センターに傷病鳥として相次いで搬送された 猛禽類

伊藤恵美 * 森重京子 *

はじめに

神奈川県自然環境保全センター(以下センター)に、県下に棲息する猛禽類が傷病鳥として保護、搬送されてくることは、もはや珍しいことではないと言える(表1)。

しかしながら、2001年12月から2002年1月にかけて、相次いでセンターには過去、記録例の極めて少ない、あるいは記録例のない猛禽類が保護・搬送されてきたのでここに報告する。

保護状況および計測値

【ケース1(写真1)】

保護年月日 2001年12月17日
保護場所 足柄上郡大井町金子の一般住宅敷地内にて
保護状況および現症 民家の物置の上でじっとしていた。右翼前腕骨遠位端および近位端の2ヶ所において、単純骨折。浮腫が見られた。

計測値

体重556g、全長435mm、翼長302.9mm、尾長169.8mm、ふ蹠長51.1mm、会合線30mm、嘴峰：蠟膜あり24mm、蠟膜なし19.4mm、嘴高14.9mm

【ケース2(写真2)】

保護年月日 2001年12月18日
保護場所 開成町の牛島開成町福祉会館前にて
保護状況および現症 会館敷地内で羽をバタバタさせていた。センター搬送前、保護者は一般の動物病院に搬送しており、ここで左翼は付け根近くから断翼したとのこと。保護翌日、患部を詳細に見てみたところ、左脇から左胸の一部にいたるまで筋肉が無菌性の壊死をおこしていた。

計測値 体重875g、全長464mm、翼長

表1 過去5年間の猛禽類の保護点数

	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	種別合計点数
オオタカ	5	6	4	5	8	28
サシバ	NC	1	NC	1	1	3
ツミ	3	6	3	1	3	16
トビ	9	6	13	15	9	52
ノスリ	1	NC	1	2	1	5
ハイタカ	NC	NC	1	NC	1	2
チゴハヤブサ	NC	NC	NC	NC	1	1
チョウゲンボウ	7	4	3	6	9	29
ハヤブサ	NC	NC	NC	1	NC	1
アオバズク	8	6	8	8	6	36
オオコノハズク	2	NC	1	1	3	7
トラフズク	1	NC	1	NC	NC	2
フクロウ	9	6	2	4	5	26
年別合計点数	45	35	37	44	47	

NC：記録なし

* 神奈川県自然環境保全センター自然保護公園部野生生物課



写真1 ケース1の個体



写真2 ケース2の個体

374mm、尾長 222.6mm、ふ蹠長 54.0mm、嘴峰：蠟膜あり 29.9mm、蠟膜なし 23.5mm、嘴高 18.4mm

【ケース3(写真3)】

保護年月日 2001年12月25日
 保護場所 秦野市三廻部の養鶏場にて
 保護状況および現症 ニワトリ小屋の中に飛び込んできた。外傷、翼下垂、骨折といったものは見当たらないが、削瘦していた。

計測値 体重 650g、全長 555mm、翼長 458mm、尾長 255mm、ふ蹠長

67mm、会合線 43mm、嘴峰：蠟膜あり 33mm、蠟膜なし 22mm

【ケース4(写真4)】

保護年月日 2001年12月30日
 保護場所 相模原市横山の踏み切りのところにて

保護状況および現症 踏み切りの道路上に座っており、追っても動かなかった。左肘関節にて開放骨折がみられ、傷口の状態から数日が経過しているものと思われた。また、竜骨がつまめるほど削瘦していた。

計測値 体重 400g、全長 435mm、翼長 433mm、尾長 236mm、ふ蹠長 53.5mm、会合線 37mm、嘴峰 36mm

【ケース5(写真5)】

保護年月日 2002年1月8日
 保護場所 足柄上郡中井町北田の一般住宅敷地内にて

保護状況および現症 庭におり、近寄っても逃げなかった。与えた餌をよく食べた。外傷も一般状態も異常なく、センターに搬送後、野外の広いケージに収容しても落ち着いており、平気で体を触らせた。

備考 一見して日本産の猛禽類ではない外貌を呈し、人にも馴れており飼育下に置かれていた外国産のものと考えられた。

種の同定

【ケース1および2】

目から下に伸びるパッチ(頬ひげ状パッチ)を有するハヤブサ類である。計測値および頬ひげ状パッチが太くしっかりしていることよりハヤブサ(*Falco peregrinus*)と同定した。また、ケース1および2とも蠟膜の色がグレーであり、胸から腹下部にかけて暗褐色の縦斑を有することより幼鳥と判定した。さらに、計測値よりケース1の個体はオス、ケース2の個体はメスと考えられた。

【ケース3】

ふ蹠全体が羽毛に覆われたノスリ類で、翼後縁お

よび尾羽外縁に黒味のある横帯があり、閉じた翼先が尾先に届くことよりケアシノスリ (*Buteo lagopus*) と同定した。また、頭部から胸部にかけての色が薄く、翼後縁と尾羽外縁の横帯が不明瞭で、成鳥では明瞭な翼と尾羽の太いラインの内側の細いラインも不明瞭なこと、そしてふ蹠の羽毛には木の葉型の小斑があることより、幼鳥と判定した。本種のオスとノスリのメスの計測値は重複する。この個体の計測値は、ノスリのメスの計測値よりも顕著に大きいためメスと思われる。なお、ケース1～3については、森岡ほか(1995)を引用した。

【ケース4】

その外貌より全体の羽色が亜種フクロウや亜種モ



写真3 ケース3の個体



写真4 ケース4の個体

ミヤマフクロウよりも濃く、赤褐色味が強いこと(叶内ほか 1998)特に顔盤の中の部分まで赤褐色であることより、亜種キュウシュウフクロウ (*Strix uralensis fuscescens*) と同定した。年齢区分、雌雄の判定は難しいと思われた。

【ケース5】

センターには資料となるものがなかったことから、猛禽類輸入業者の方に写真を送って見てもらったところ、ワシノスリ (*Geranoaetus melanoleucus*) とされるとの返事をいただいた。1990年代後半にブームがあり、年間十数羽ほどがペットとして輸入されていたようだとのことであった。

同定の根拠となる詳細な記載がされている文献、および大きく鮮明な写真を入手できず、インターネットでの検索で2枚の写真 (CENTER FOR COASTAL PHYSICAL OCEANOGRAPHY 2002, Juan Tassara B., 2002) および Josep del Hoyo (1994) から外貌を確認するにとどまった。なお、学名は IUCN (2002) にしたがった。

おわりに

約2ヶ月の短期間に、過去記録例のみられないような猛禽類が、相次いでセンターへ搬送されたのは異例と言える。過去の記録を見ると、ハヤブサについては1999年の1例があったのみで、ケアシノスリ、キュウシュウフクロウは初めての記録となった。



写真5 ケース5の個体

2002年1月20日現在、ハヤブサは2羽とも傷は回復し、リハビリ中。ケアシノスリ、キュウシュウフクロウは死亡してしまったため、標本など資料として外部諸機関に提供すべく、冷凍保存中である。

ワシノスリはワシントン条約では付属書 に分類され、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、ペルーといった南米域に生息する猛禽類である (IUCN, 2002)。すなわち、飼育下から逸脱した外国産の鳥ということになる。よってセンターの神奈川県傷病鳥獣保護記録としてはナンバリング外としたが、野外で拾得されたという事実そのものを記録として残すことの必要性を感じ、今回ここに報告するに至った。

謝辞

本稿をすすめるにあたっては、神内光示氏、藤井幹氏に大変お世話になりました。ここに謹んでお礼申し上げます。

引用文献

CENTER FOR COASTAL PHYSICAL OCEANOGRAPHY
(2002) AGUILA [online] [引用:2002-1-20]
Available for Internet <http://>

www.ccpo.odu.edu/~andres/aves/141.0.html
del Hoyo, J., Elliott, A. & Sargatal,
(eds.) (1994) HANDBOOK OF THE BIRDS OF
WORLD vol.2 Linx Edicions.pp.175
Barcelona

IUCN (2002) CITES Home Page Genus-
Geranoaetus | Species-melanoleucus result
[online] [引用:2002-1-20] Available
for Internet:

[http://quin.unepwcmc.org/isdb/
animal.cfm?](http://quin.unepwcmc.org/isdb/animal.cfm?)

genus=Geranoaetus&species=melanoleucus

Juan Tassara B. (2002) AVES DE CHILE-Gran
Guia Web Ilustrada [online] [引用:2002-
1-20] Available for Internet:

[http://members.tripod.com/aveschilenas/
204.htm](http://members.tripod.com/aveschilenas/204.htm)

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄(1998) 山溪ハン
ディー図鑑7日本の野鳥 山と溪谷社 pp.359

森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男(1995) 日
本のワシタカ類 文一総合出版 pp.136-147・
pp.338-355